

歯科保健指導（含訪問歯科保健指導）

講 師	生 田 佳 代 中 尾 亜 希 子	実施時期 単 位 数	第 3 学年前・後期 1 単位 （40 時間）	実務経験	○
一般目標（GIO）	健康と疾病の概念を理解し、人々の歯・口腔の健康を維持・増進するために、プロフェッショナルケア・セルフケア・コミュニティケアの基本となる知識、技術および態度を修得する。				
授 業 概 要	歯科保健指導は人々の生活習慣や態度を望ましい歯科保健行動に変容させるために専門的立場から支援することである。第3学年では、特に高齢者・有病者への対応を中心に基本から応用力を身につけていく。				
学 習 方 法	講義、デモンストレーション、グループディスカッション、実技（実習）				
成績評価の方法	記述試験（定期試験）をおおよそ80%とし、残り20%は課題、レポート、授業態度、出席状況等を総合して評価する。				
教 科 書	全国歯科衛生士教育協議会（監） 歯科衛生学シリーズ「歯科予防処置論・歯科保健指導論」 医歯薬出版				
履修上の注意	歯科予防処置論、高齢者歯科学、摂食機能訓練法と重複する内容もあるため、他科目の教科書や資料も参考にすること。本授業で配付した資料は必ず復習し、次回の授業の準備として活用すること。また、普段から幅広い知識や情報の収集を心掛け、同時にコミュニケーション能力、接遇作法、話法等も身につけて欲しい。				
参 考 書	①全国歯科衛生士教育協議会（監） 歯科衛生学シリーズ「高齢者歯科学」 医歯薬出版 ②金子芳洋（編）「歯科衛生士のための摂食・嚥下リハビリテーション」 医歯薬出版 ③全国歯科衛生士教育協議会（編）「よくわかる 歯科衛生過程」 医歯薬出版 ④尾崎哲則、埴岡隆（編著）「歯科衛生士のための禁煙支援ガイドブック」 医歯薬出版				
教員の職務経験 （科目との関連性）	歯科医院での勤務経験をもとに、歯科保健指導の基本的知識を講義、実習する。				

授業計画

No.	授業項目	到達目標（SB0s）
1 2	栄養指導（離乳食と幼児食指導）	①乳幼児期の口腔機能および身体の発達段階を説明できる。 ②口腔機能および身体の発達に沿った離乳食・幼児食の選択ができる。 ③口腔機能および身体の発達に沿った食具の選択ができる。 ④保育者への助言を考えることができる。
3	口腔衛生管理と口腔機能管理 在宅での口腔衛生管理	①高齢者の精神的・身体的特徴を説明できる。 ②高齢者の口腔衛生管理時の留意点について理解できる。 ③高齢者の口腔衛生管理に使用する器材について列挙できる。 ④在宅医療制度の概要を理解できる。 ⑤在宅訪問診療における歯科の役割を理解できる。 ⑥在宅訪問診療における歯科衛生士の役割を説明できる。
4 5	口腔衛生管理/口腔機能管理（実習）	①高齢者の口腔衛生管理に影響する高齢者の特徴について説明できる。 ②高齢者の口腔衛生管理の留意点について説明できる。 ③口腔機能を管理するためのスクリーニングテストを実施できる。
6	認知症患者との関わり	①認知症患者の実際を理解できる。 ②認知症患者の対応を説明できる。
7	口腔機能管理	①口腔機能管理の流れを説明できる。 ②口腔機能を管理するためのスクリーニングテストについて説明できる。 ③誤嚥時の対応法について説明できる。
8 9 15	症例を用いた高齢者の歯科衛生過程	①ICFについて理解できる。 ②要介護高齢者への歯科衛生介入を説明できる。
16 17 18	総合患者実習症例発表会、評価 （口腔保健管理と合同）	①第1，2回総合患者実習の実施内容を比較できる。 ②実習時の患者の心理を理解できる。 ③継続管理について理解できる。 ④歯科衛生過程を展開できる。 ⑤パワーポイントを使用し症例を説明できる。
19 20	大規模災害被災者への支援	①大規模災害時の歯科保健活動を説明できる。